

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市住之江区南港東 2-2-39	氏名	清和ウエックス株式会社 代表取締役 廣瀬 武
特定事業者の主たる業種		78洗濯・理容・美容・浴場業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		リネンサプライ業として、ユニフォームレンタル、テーブルリネンサプライ、ホテルリネンサプライ、産業用リネンサプライをサービスし、全国に関連工場が16拠点ある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,093 t-CO ₂	6,199 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,282 t-CO ₂	6,406 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース) 3 %	3.6 %	4.2 %	7.6 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.5 %	4.1 %	7.4 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記す)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成28年度は基準年度の平成25年度よりエネルギー総使用量、温室効果ガス排出量も増えている。しかし生産量も増えており、原単位としては減少している。27年度より生産量集計方法を変更しているが、基準年度は従来のみなし生産量のため、比較のためにのみなし生産量での報告としている。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理統括者：常務取締役、エネルギー管理推進者：大阪生産部部长

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	第2工場	コード(1125) 温水配管設置	温水配管の設置 ⇒H26年度実施済み	26年度 ～ 27年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	第1工場	コード(1213) 排熱回収設備の導入	排熱を利用して濯ぎ水の温度を上昇させる ⇒費用対効果小のため未実施	26年度 ～ 27年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	第1工場	コード(5221) 燃料、電気使用量の削減	ロール機を省エネ仕様に入替える ⇒H25年度実施済み	26年度 ～ 27年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	第1工場	コード(1299) 稼働時間の短縮による使用量低減	タオルフォルダー(タタミ機)高速化実施による生産性向上を狙う ⇒H26年度実施済み	26年度 ～ 27年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	第2工場	コード(5221) 燃料使用量の削減	熱交換器の更新(温度範囲の適応見直し) ⇒H28年度実施済み	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	第1工場	コード(1213) 排熱回収設備の導入	冷温水発生装置(平成10年製)更新による冷却効率向上 ⇒効果小のため未実施	28年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	第1工場	コード(1299) 稼働時間の短縮による使用量低減	シート投入機更新による生産性向上 ⇒H28年度実施済み	28年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	第1工場	コード(5221) 電力使用量の削減	工場水銀灯からLED電灯へ更新 ⇒H29年度実施予定	29年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
9	レ GHG排出	第1工場	コード(5221) 電力使用量の削減	タオルたたみ機をマルチに変更し、稼働時間の短縮を図る ⇒H29年度実施済み	29年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	清和ウエックス株式会社	コード(0)	ハイブリッド車の導入により、ガソリンの使用量の削減を図る	29年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

(3) その他の抑制対策
